

※ 本コラムは、共同通信社より配信されたものです。

時間貸しサービスで普及

パリの電気自動車

フランスは温室効果ガスの排出量を、2050年までに1990年の4分の1に削減する方針です。太陽光や風力など再生可能エネルギー利用と並び、電気自動車(EV)をはじめとする「低炭素自動車」の利用を政策の柱に据えています。

日本ではそれほど普及していないEVですが、パリではずいぶん目立ちます。「オートリブ」という時間貸しサービスが広がっているからです。

オートリブは、パリが誇る世界で最大規模の貸自転車システムの成功を参考にして、11年12月にスタートしました。貸し出しているEVは2千台を超え、1日に約1万件の利用があるそうです。

さまざまな料金プランがあって、年間120ユーロ(約1万6千円)の基本料金を払うプランでは、30分5.5ユーロ(約740円)で利用できます。マイカーを手放す人も出始めており、パリでのエンジン騒音や排ガスの低減などが期待されています。

パリ市は、3500万ユーロ(約50億円)を投じて充電ステーションを千カ所以上設け、サービスの拡大を支えています。EVを利用した後は、近くのステーションに返す「乗り捨て」ができます。

オートリブはフランスの他の地域にも順次広がっていく見通しです。他国の関心も集め、米サンフランシスコや韓国・ソウルの市長らが見学に訪れました。

EVは、都市が抱える交通問題などを解決する力を秘めています。地域で活用するシステムと一緒にEVを輸出することができれば、21世紀の「スマートな(賢い)」ものづくりのモデルになるでしょう。(株式会社グッドバンカー)